



焦燥
という名の森

糞谷キヤ子



くすぶり続けて
早数年

僕はやっと
ドラマで役を
もらえること
になった

しかしそれには
条件がある

あれか…

相変わらず
変人だな

売れっ子脚本家
高砂慎司のホンを

入っちゃいますよ

なんとしても
取ってくる
ということ

数ヶ月前

何で俺が
そんなこと
しなきゃ
いけないんです

スケジュール空いてんの
お前しかいねえんだよ

プロデューサーも
意外と忙しいんだ

じゃあ
息子に頼めば
いいじゃない
ですか

何人入るのここ？
俺と仕事してた頃より
酷いんじゃない？

僕は
小劇場に
こだわって
いるんです

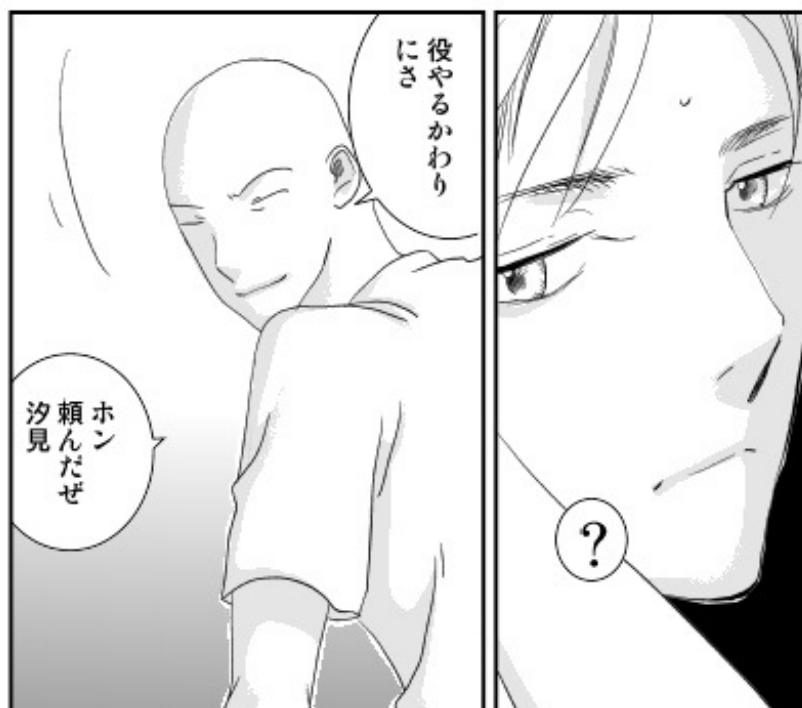
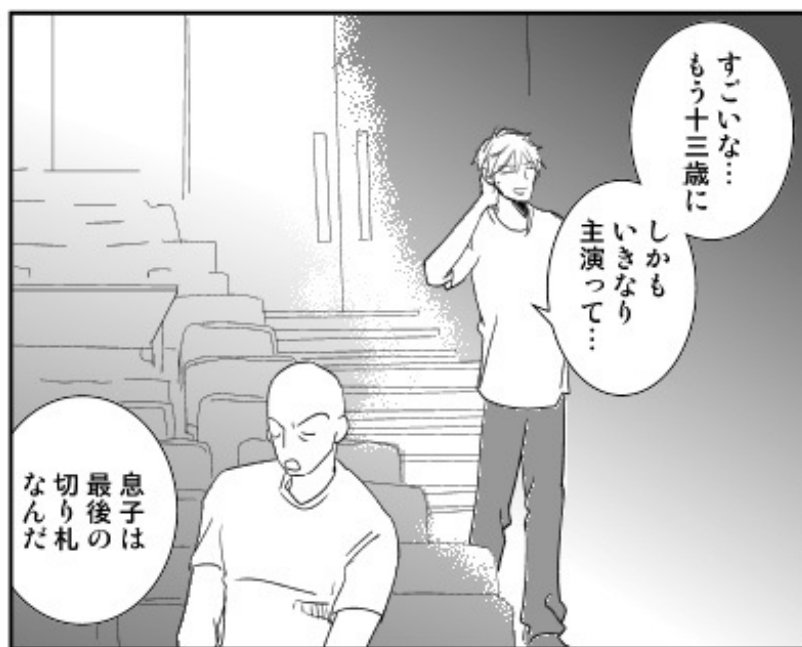
もう
戦隊物とか
子供相手じゃ
ないですから

売れないことは
変わらないよ

むっ

冷やかに
来ただけなら
帰ってくださいよ

お前
こんな所から
早く抜け出した
い







あの頃
僕は
ヒーローだった

歴史の間に
葬り去られた
彼の仕事だ

ああ
あの頃が
懐かしいが

さっさと
おちたわ...



浮上
するの
か

高砂さん

僕は
また
君の力を
借りて



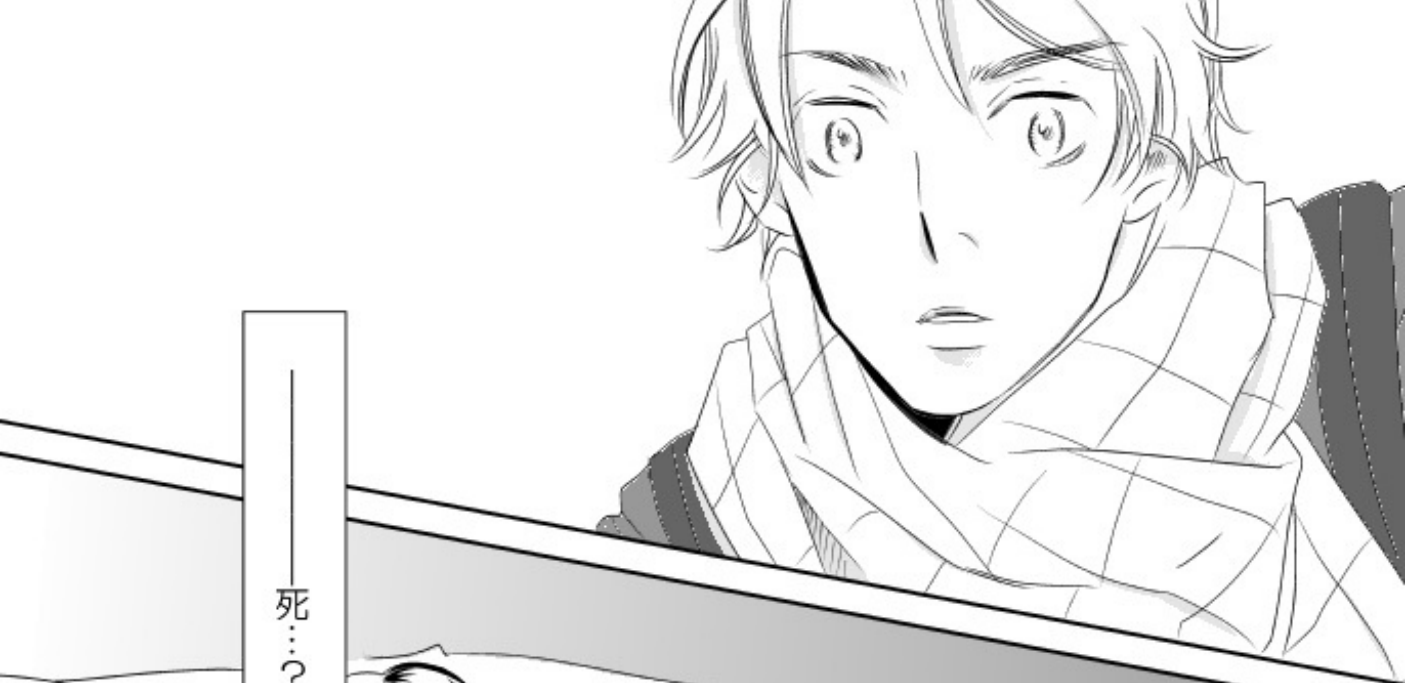
おい
高砂

いるのかい？



しまったく
何してんだ







あーよかった
高砂さん

ホンは？

ホンは
どこですか？



生きてるよ



うっせーな

誰だよ
お前



お
俺だよお

童顔だから
同じだよ

汐見真人！
N大で一緒だった



あれ…？

あ

まったく
プロデューサーも
ADよこしやがって
俺もなめられた
もんだぜ…

フツ
フツ





親父が
妨害して
どーすんだよ

あいつは
まだ若いから
何とでも
なるさ

高砂
主役は
君の息子
だぞ



若くない
俺は
どうしたら
いいんだ



知るか



十三歳にして
いきなり主役に
抜擢された

いいのか？

企画自体調子に
乗り過ぎなんだよ
打ち切りだ
こんなもん！



アイレンジャー
から数年

劇団に戻った
のが運の尽きか

俺はくすびり
つつけ

嫁と子に
恵まれた
ものの



アイレンジャー
だけでは
もう機嫌も
とれない

やだなあ…

せっかく
テレビの仕事が
来たって
いうのに…



どーいう
こと？

俺にはチャンスすら
与えられてないのか？

何が
おかしい









うらやましいなんて
言いたくないけど

うちの劇団
だってね

昔はすごかったんだ

君も旗揚げ
メンバーだったよな

忘れたとは
言わせないよ

毎日毎日
あり得ないこと
ばっかり起こってさ


楽しかった

忘れねえよ

終始つるんで
もめ事といたら
女の事ばかりで

演劇とも
呼べないパフォー
マンスで
仲間内だけで
盛り上がってやる

何が
楽しい
んだか…




テメエはあのとき
言ったな

俺たちの
コミュニティに

楽しくやれねえ奴は
いらねえと



そんなこと
意味がねえと
思ったから
俺は去った

仲良しクラブに
入ったわけじゃ
ないからな




俺にとっては
そんな時期だった

それしか
考えられなかった



俺は
芝居に
命を
かけてたんだ



俺は一度だって
楽しいなんて
思ったことはねえぞ



これが
俺とおまえの
差なんだよ

数年前

すごいじゃん
高砂

映画の次は
連ドラの
脚本やんだって？

ああ

——
たまたまね

プロデューサーが
俺の舞台見ててさ

……
運がいいんだな

「運がいいんだな」

ボク
ボク
ボク
そんな簡単な言葉で…

う…
お前は…



お前には俺が何をしてきたか

全然わかんねえだろ



今までお前が何をしてきたか俺には(なにもなく)わかってるよ

でも

「運がいいんだな」





俺は
夢から
覚めるの
かな

あんだついに
行くとこまで
行ったな!



誤解ですよ

昨日
飲んじゃって
そのまま...

んなことは
どーでも
いいんです



は
は
は

ドク
ドク
ドク

...





だから
てめえを
よこしたんだな

わあー
信じられない
目の前に
ブルーがいるなんて

え
何？
何が起こって
るんだ！？

高砂の息子は幼い頃 アイレンシャー(特上ブルー)の大ファンだったらしい

ああ
別に僕
父さんの脚本じゃ
なくてもいいや

ブルーに
会えちゃったし
あんたの力は
もういらない



弘紀くん
ちよっと
言い過ぎ...

だって
どうせ書いて
ないんでしょ



すごい
恐い顔
してたよ



ほっとけば
いいんですよ
たぶん今頃
書いてるんじや
ないかな



アイレンジャーが
きっかけで
役者に興味を
持ったんですよ

えええ

僕未だに
グツズとか
集めてて



切り札って
このことなのか...?

それよりも



そうだね

こんな風に
ふわふわと
漂って

あんまり
それは
考えたくない

—

でもね
僕がヒーロー
だったのは
君のお父さんが
いたからなんだよ

君の
お父さんの
脚本だもん

またこの森に
迷い込む

父さんの
やきもちが
酷いでしょう

やきもち
だったのかー

高砂が
大好きな君は

彼が
大嫌いな俺が
好きだから？

父親らしいこと
なんにもしないくせに
虫が良すぎるんだ
あの人は…

でも
俺は高砂が
うらやましいよ…
才能に恵まれて…

あ
僕ね
この決めポーズ
すごい得意なん
ですよ

なんかもう
とにかく
アイテムとか
きてましたよね

ブーブー
アイアンジョー

どんな敵が
来ても
絶対勝つし

♪マイヤー
マイヤー
正義のために
俺のために
マイヤー
マイヤー
スライ
身



だから
それを
君のお父さんがね…

父も忙し
そうにしてたし

いつも
一人で
見えましたね

ちょうど
母がいなく
なった時で

毎回
二人で見てたの？

ひゅん…?

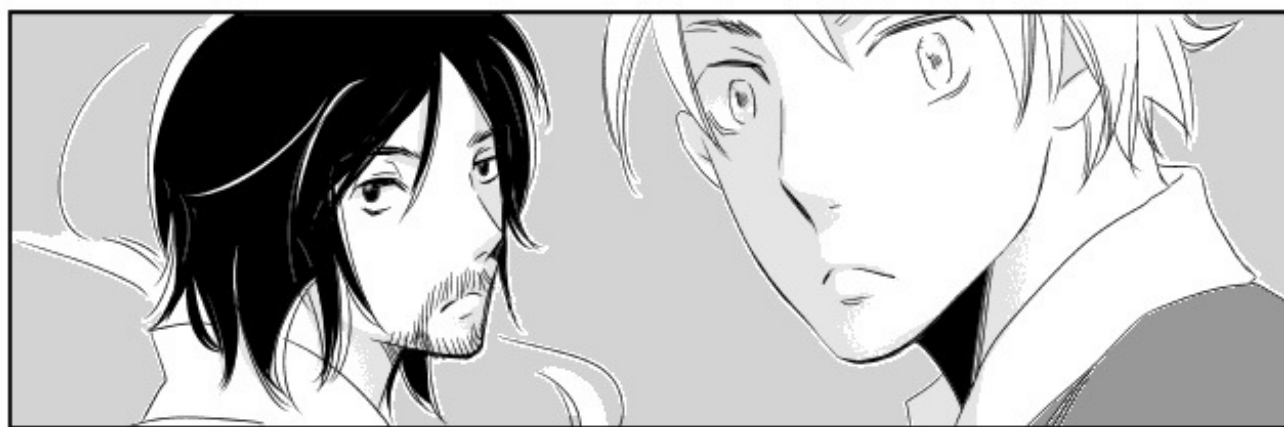
耳障りな歌を
歌うな…







最後
生き返るんだ



高砂...



ありがとう

なん

だか、わかりにくい話ですいません...これのつづきもあるので、そのうちまた上げたいと思います。
読んでくれてありがとうございます。

